

春闘宣言

2017年春闘において、私たちは、健やかに生きる権利の行使を宣言します。

最低賃金 1500 円の獲得。

出版労連としてこれまで取り組んできた、この素朴で、切実な、要求を実現させましょう。

私たちは、格差と貧困の時代の真ただ中にいます。昨今子ども食堂が注目を浴びているように、子どもの 6 人に 1 人は貧困状態にあります。労働者の 4 割を占める非正規労働者の平均賃金は正規の半分にも満たないという現実があります。この現実は、私たち自身のことでもあり、私たちのすぐ隣にいる人の現実でもあるのです。この不合理な現実を跳ね返し、だれもが、普通に働き、健やかに生きる権利を行使できるように、すべての人々とつながり、「最賃 1500 円」が実現するよう、声を上げていきましょう。

同様に、長時間労働とも決別し、私たちの手に、私たちの時間を取り戻しましょう。繰り返される過労自死事件、過労によるメンタルヘルス不全など、長時間労働がもたらす問題は深刻です。一方、職場での仕事を前にしたとき、自らの長時間労働について相対化できない弱さを抱えています。私たちは、今春闘において、この弱さを乗り越え、長時間労働の問題について、あらゆる場面での取り組みを広げていきましょう。

残念ながら、健やかに生きる権利を行使するために声を上げた途端、その行動に対して、揶揄の声やバッシングが浴びせられることが日々おきています。たとえば、原発被害で避難せざるをえない人々に対して、また沖縄の辺野古新基地建設やヘリパッド建設に反対する人々に対して、その攻撃はマスコミも含めて拡散されている現状があります。特に少数者や弱い立場の人々に対して、共感以上に、権利を求めることへの反発の声の方が大きくなり、権利主張を委縮させてしまうような社会になりつつあります。

しかし私たちは、人権が保障された自由で平和な社会があって成り立つ出版産業の中で存在しています。ゆえに、私たちには、私たちを支える自由で平和な社会を守るための不断の努力が求められ、「人権」が脅かされることのないよう、「真実」を伝える義務を負っています。私たちの存在を脅かす状況に対して、対抗する力、真実を見極める力をつけていきましょう。私たちは自由で平和な社会があって成り立つ出版産業で働く労働者の組合であることを確認し合ひましょう。

私たちは、今日ここに集い、春闘方針を議論し、要求実現のための行動を確認しました。勇気をもって、健やかに生きる権利を要求していきましょう。

2017年2月15日
日本出版労働組合連合会
第128回臨時大会